

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年7月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100708
法人名	医療法人 秀愛会
事業所名	グループホーム 清滝
所在地	鹿児島県鹿児島市西千石町13番30号 (電話) 099-213-9950
自己評価作成日	令和6年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●尊厳を持ってその人らしい暮らしができるようにお手伝いします
 ●ゆったりと暮らせる環境を一緒に作っていきます
 ●地域の一員としての橋渡しを行います

を理念に掲げ、ご利用者様、ご家族様との関係性を大切にしている。行事も現在は状況により、難しい面もあるがご家族参加型の行事に取り組み、家族会を開催してご利用者の日々の暮らしを知って頂いたり、ご要望や相談しやすい環境作りにとりくんでいる。また鹿児島市の中心に位置し交通の便にも恵まれているため、おはら祭やハンヤ、地域小学校での行事など外出しやすい環境である。行事なども事業所(通所介護事業所やサービス付高齢者専用賃貸住宅)と合同での行事やレクレーションなどの交流を行っている。また沖野循環器科病院が併設であり、定期の受診や緊急時にも対応ができ安心して生活が出来るように支援している。外部研修に参加したり、内部研修にも定期的に開催し年間計画をたててケアの質の向上に向けて努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、法人関連施設の一つであり、組織的に体制が整い安定した介護業務ができています。法人研修や事業所研修が組み込まれており、管理者は、研修案内について職員に提示し、職員は自主的に申請している。
 ・管理者は職員の意見を聞いたり個別面接を取り入れ、職員育成に力を入れている。
 ・リビングは、キッチンと対面になっており、調理や盛り付けも視覚的によく見え、食事が待ち遠しい感じがする。
 ・集団や個人でのレクリエーションが組まれており、個々の趣味や力量を判断し取り組んでいる。
 ・食事の前に、職員が嚥下体操の目的を大きな声で説明し、職員数人と利用者が一体になり楽しく声をだして取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各階に理念を掲示し、入職時に地域密着型サービス、特に「グループホーム」としての事業所理念の共有を行っている。理念に基づき、支援できているか、自分達がどのようなグループホームにしたいか支援の目安にもしたい。	理念は随時見直しをしているが、開設同時からで定着している。各階の玄関に掲示し、日常的に振り返りをしている。カンファレンスで取りあげる時もある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域の一員として」の交流であるが、現状実施が難しいと感じている。コロナ禍の状況にて、中々地域との交流もできていないが、落ち着いた際は交流の場を増やし廃品配収や地域との関りも再開していきたい。	自治会に加入し情報提供は本部からの回覧で把握している。近くの公園に散歩に出かけた時に挨拶程度の交流をしている。運営推進会議で情報を得たり介護相談の紹介を受けたり、看護学生の実習を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の人々への理解や支援方法として、2ヶ月に1回の運営推進会議での報告を行っている。民生委員や包括支援センターなど、在宅の方と密に接する機会のある方の為、今後も一体となった認知症の方への支援を行って行きたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の状況においては対面での実施が難しく、電話報告、タブレットを使用しての状況報告を行ってきた。令和5年度より、対面で行うようになってきた為、今後はより密になって現場を見て頂いたり、相談、支援の実施を行い更なる向上に期待している。	会議は2ヶ月毎に開催している。事業所報告・利用者状況・転倒・誤薬・滑落等の報告をしている。民生委員からの意見が多くあり、認知症についての相談等も出ており対応している。花の開花状況の情報をもらったりして出かけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者へ、定期的な実績報告、アンケート等以外にも疑問点や相談を担当者間にて連携を行い、協力関係を積極的に行うように努めている。今後も法改正等、現場側が円滑に運営できるように努めて行きたい。	窓口担当者に直接相談したり、事業所の情報報告などを行っている。行政のアンケートも多く、情報や交流を行っている。研修案内もあり、職員は自主的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所一体となり、身体拘束、虐待防止委員会を立ち上げ、会議、報告、その後の職員への周知共有認識の徹底を行っている。また事業所内においては勉強会（研修）を年に2回行い、勉強会内でも簡易テストを行うなど認識としても「身体拘束をしないケア」に努める	3ヶ月毎に法人全体で身体拘束・虐待防止委員会を開催し、事業所内で年に2回勉強会をしている。タブレットやスマホの媒体を使って研修項目に沿い各自勉強している。終了後は、簡易テストに挑戦する仕組みになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を事業所、法人にて立ち上げ、3か月に1回委員会の実施を行っている。また他部署の急な確認も行い、共通認識を行っている。また、事業所内においては、研修、入職の際に新人研修を行い、防止に努めている。また通常業務においても適切な言葉遣いか、ケアかななどを声掛けや注意しあっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見制度を活用した利用者様もいる中で学び、また日々の支援こそが自立支援に繋がっているか確認を行いながら支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約においては、契約締結時だけでなく、事前に本人、ご家族と密に連携を取り、利用料金・運営・内容への理解等へ納得頂き、契約を行っている。契約時、契約後も相談窓口を置き、また事業所だけでなく、関係機関（行政や専門機関）の案内も契約書へ記載し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者本人、家族等の意見が反映できるように、事業所内だけでなく、外においても案内の記載を行い、相談において早く円滑に解決できるように努めている。また、事業所外への案内を行った際も問題解説ができたかのアフターフォローや確認を行うよう努めている。	利用者には、入浴時や夜間帯に聞くようにしている。対話ができる利用者が多く、食事の事や外泊希望がある。家族からも外出等の質問があり、早い時期に自由な生活を期待している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より、職員の意見や要望等、述べやすい環境作り（声掛け、必要時の聞き取り）を行い、早い問題解決できるように努めている。方法として定期的な面談も行っている。必要時は法人への報告も行っている。	利用者情報やケアの提案等は、日々の申し送りで解決することが多い。毎月1時間程度のカンファレンスをして、全体で話し合う議題に時間を要している。必要な決済は、上部に報告し運営に反映できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力や実績を把握に努め各自が向上心をもって働けるよう努めている。今後も職員がやりがいを持って働きやすい環境作り、個々の実績や努力に応じて給与への反映にできるようにしたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への取り組みとして、県、市の研修案内の周知、研修費の支援、時間内での研修できるような勤務体制を取り組んでいる。事業所側からの声掛けも行っているが、職員自身の意欲や自己研鑽に繋がる事を期待したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の状況において同業者同士での交流や情報交換に難を感じる事が多かった。グループホーム協会への入会や事業所間での交流や情報共有がサービスの質の向上へ繋がると考えており、活動の幅を広げる必要があると感じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始にあたり、特に初期の段階においては、本人の環境変化、心理的な変化、周りを取りまく環境が特段変化し、心身共に影響する事を踏まえ、特に気を付け事業所内だけでなく、ご家族様や主治医や関係部署とも連携をもち関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に気付くご家族との関係について、ハード面の説明だけでなく、ソフト面における支援や関係、信頼作りに努めている。また本人の支援内容についても事前にしっかりと説明を行い、要望当に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始にあたり、サービス内容の説明と要望に応じた柔軟な対応支援を行っている。また各機関への紹介や福祉用具、訪問マッサージ等の活用等。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居される「本人主体」を一番に職員が、本人様とどのように関係性を築くか、観察や見極めを行いながら今後も支援を行っていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がどのような経緯や想いで本人の入所に至ったかの想いやニーズに沿いながら、入所後の関係性も継続支援できるように定期的な報告だけでなく、面会時でのお声掛けや傾聴を行うよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が親しまれて使用されていた品物や交友関係を本人の意向に沿い、居室において頂いたり、現在はコロナ禍の状況により面会は難しいが、以前がご友人との面会もして頂いていた。電話や手紙でのやり取りをしたり、今後も継続支援を行う。	利用者は事業所近隣に住んでいた方が多く、友人の面会がある。訪問理美容は定期的に行っている。電話や手紙のやり取りも支援している。墓参は家族支援である。馴染みの店への訪問は、今後の課題としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の尊厳やプライバシーは大切にしながら、共有スペースの活用、また孤立しないようお互いの距離をはかりつつ、時として職員が仲介に入りながら、関係性作りに努める。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もお家族よりご連絡を頂いたり、施設に顔を出してくださる事もあり、また後家族の紹介で入所していただいた方もいらっしゃる。これからも関係性を大切にしていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の想いを尊重しながら、意向の把握を行っている。また、日頃のコミュニケーションの際も「変化」を見逃さないように職員間でも共有を行いながら支援に努める。ご家族の情報もとても大切なため情報共有を行う。	入浴時や夜間帯は、職員とゆっくり話す場面があり、意図的にこの時間帯は思いや願い等、今後の暮らし方を知る機会としている。帰宅願望の利用者も毎日の生活を思うと、此处が良いと話をしてくれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されてからの状態ではなく、入所にいたるまでの経緯をしっかりと把握し、生活環境や役割など、どのように影響するかも含めて支援ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人と合った、その人らしい生活が行えるよう努め、職員間でも日々の申し送り等にて情報共有しながら把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、計画作成担当にて介護計画サービスの作成を行うが、変化していく状態に対応し幅を持った支援ができるよう関係者と話し合いを行ってる。	担当者会議は家族も参加し話し合いを行ない、利用者及び家族の意向を取り入れた介護計画である。3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に課題とケアのあり方の見直しを実施している。医師は意見書を通して参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録はもちろん、定時の申し送りや送りノートの記入に加え日々の会話の中でも支援の話になることもあり情報共有に務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々でご本人・ご家族ともに意向や希望が変わるものとして、介護計画の定期更新だけでなく随時柔軟に対応できるように努めている。またそれに対して適切なサービスや支援を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類に分類されたとは言え高齢な利用者にとっては脅威であり感染を鑑みると地域資源の活用や近隣住人との係わりは十分に生かし切れていない状況である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人である隣接した病院がかかりつけ医になっており受診や訪問診療時だけでなく必要時は些細な事でも相談が出来るように情報共有し指導を頂いている	入所時にかかりつけ医について説明し、本人及び家族の希望するかかりつけ医である。月に1～2回職員同行で受診している。車椅子の利用者は訪問診療を受け、病状や薬等を家族に報告している。歯科は訪問診療、他科は家族同行になっている。24時間医療連携体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記病院看護師と訪問看護での情報共有だけでなく、不安時や些細な状態の変化も相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関と連携し情報共有を行い退院に向けた支援を行っている。また入院中の状態の変化等も主治医に確認し情報共有しながら退院に向けた支援を行うよう務めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明を行っている。そのような状況になった場合、再度時間をかけて説明を行っている。重度化、終末期に関しては特に本人や家族の心情も揺れ動くため、その都度の聞き込みや対応を行い寄り添えるようにしている	契約時に重度化や終末期の方針について、説明し同意を得ている。状態変化時は、段階を追って医師から利用者や家族に説明し、今後の方針を話し合い共有している。医療処置を希望しない場合は、事業所で看取りをしている。看護師の協力も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、看護体制を同法人内で整えており、実践に繋がっている。応急処置等も事前に把握を行い、マニュアルに沿って対応を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間で2回、日中、夜間を問わない想定にて避難訓練を法人全体で行っている。また消防にも協力を依頼し実技も含めた訓練となっている。	年に2回法人全体の昼夜想定で避難訓練を実施している。水害や災害時の避難も実施している。事業所は6階でベランダや非常階段も狭く車いすの場合は安全な避難は課題があり、研究中である。運営推進会議等を通し理解者や応援者が増えることを目指している。水やレトルト食品・米等の3日分を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の生活歴ややってきた仕事や趣味などをご家族様にもお聞きし情報を得たうえで性格や考え方その時の表情や態度に合わせた言葉選びや対応をとるように努めている	接遇の研修を受け利用者への支援に活かすようにしている。サービスに不安なく自由な関わりをしている。オムツ交換や入浴支援等で羞恥心に配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援として来ていただく洋服や食事の選択などを行っている。また選択が困難な入居者様には二者択一にするなど対応も行っており職員都合にならないよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活のリズムに合わせて希望に添えるよう支援をしている。ある程度の決まり事はあるものの強制はせず個人の楽しみや役割など個別レクとして提供し楽しみややりがいを感じてもらいながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご家族に依頼しご本人が入居前に着ていたものや常用している化粧品など身だしなみに使う物をお持ちいただき継続して使用してもらえるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も含め一緒に食卓を囲み季節のメニューや旬の食材を提供できるようにしている。また野菜切りやお盆拭きの軽作業も入居者様を交えながら行っている。	調理担当は職員の輪番制で対応している。献立もバランスを考慮している。行事食や花見弁当も提供している。ケーキ作りや梅・ラッキョウ漬け・あくまき作り等を利用者も一緒になり楽しく参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴や基礎疾患、食事摂取量や排泄状況など個々の状態の違いを考慮し時には主治医や管理栄養士に相談をしながら食事、水分量、形態も含め工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの支援に関して協力医と連携を取り訪問歯科による定期的な口腔内チェックや痛みや違和感に対する支援を行っている。口腔衛生の環境を整えることは、肺炎、認知症の進行、食事形態の低下の予防になると考え、不十分な方は磨き直しも行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗の原因がなにか職員間で話し合い極力失敗がないよう支援している。また個人の身体状況に合わせて夜間のポータブルトイレ使用。常時オムツを使用している方も二人介助で便座に座っていただき自然に排泄できるよう支援も行っている。	昼間はトイレ誘導を支援している。夜間はポータブルトイレを使用し、センサーで職員は対応している。失禁回数を減らす取り組みをしており、回数が減少傾向にある。トイレは3ヶ所あり、時間が一緒になると待たせてしまう傾向があり、課題となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう運動、水分摂取を促し自然排便の為の支援を行っている。やむを得ず下剤を使う場合はリスクを理解した上で使用をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週に2回実施している。形式上曜日は決まっているが強制ではなくその日の体調や気分、予定によって日程の変更を行っている。また本人様の嗜好に合わせたシャンプーやボディソープ、浴槽にかかる時間をできるだけ希望に合わせて支援している	入浴は週2～3回で利用者の希望で柔軟に対応している。個人専用のソープやシャンプーを使用している。転倒や事故に繋がらないように気をつけている。入浴を拒む場合は、声掛けやタイミング等で工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯のTV番組視聴等があった場合などや日中の体調体力や生活習慣にあわせご本人の希望どおりに休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、訪問診療時等で医療職への相談や連携、また在宅療養管理指導にて薬剤師による指導を頂いている。個々に応じた薬剤指導を受け、個々の内服薬について分かるファイルを準備しており特に薬の変更時には注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に趣味や楽しみを聞き取りしご家族にお願いし持ち込みにて楽しみを継続していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナも5類に移ったものの、クラスターや超高齢者施設である為容易に判断できない状況である。1月に初詣に行き4月に甲突川へ花見を予定しているが法事レベルでなければ、ご家族との外出はされていない状況である。今後としても外出先で行う事を確認しながらの対応になると想定している	近くの公園へ散歩に出かける日もある。事業所の屋上に藤の木があり、花見見物を楽しんでいる。今後は家族支援を依頼しながら利用者が行きたい所に支援を考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は入居者様個人で管理しているお金はない。また現在は外出や買い物支援もコロナ禍行えていないが感染状況によって再開していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持ってこられている利用者様が数名いらっしゃる。遠方のご家族やご友人には手紙を頂いたり電話の取次ぎを行っている。暑中お見舞い、年賀状の送付も全体レクとして行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明、寒暖の差や匂いなど不快な刺激やや混乱の素とならないよう入居者様1人1人に完璧に合わせられるわけではないが調整を行っている。掲示物に関しても時季に合わせての飾りを過剰にならないよう配慮しながら掲示している。	騒音や不快な臭いもなく落ち着いている。空調管理や感染防止対策も完備している。廊下は手すりがあり、歩行練習になっている。リビングは、キッチンと対面になっておりお互いの様子が分かる。桜の木を飾り弁当を食べている笑顔の写真を飾ったり、レクリエーションの場にもなっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではあるが個人個人で思い思いの時間が過ごせるよう配慮している。気の合う入居者同士で談話したりゆっくりと読書をしたりと独りで過ごしていただく時間も大事にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際のレイアウトはご本人の身体状況を考慮しつつご家族も含めて決定している。また家具や日用品を持ち込んでいただいている。また住んでいる間に変化した場合もご家族に相談している。	ベッド・エアコン・タンスを施設で設置している。その他好みの持ち込みがあり、仏壇や位牌を傍に置き自己管理している。新聞購読者もいる。居室の飾りは家族や職員と一緒にしている。衣類管理は職員中心で衣更えの時は、家族に連絡し季節に合った衣類の準備をしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全な自立と安全は確約できるものではなく、その人の残存機能に応じた自立支援、安全に配慮できる距離感を本人も含め関わる方と話をしながら落としどころを見極め支援している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない